









調べ学習

水辺の情報をインターネットで調べよう



水辺に行く前に、天気予報など安全にかかわるさまざまな情報を調べるのが大切です。
あなたが住む地域や、遊びや旅行に行く場所の水辺の情報をインターネットで調べてみましょう。

種類	調べるポイント／インターネットサイトの例	確認したら ☑
天気予報 ・ 風向き ・ 風速 	天気の移り変わりや、風の強さを調べて、水辺がどのようなかを予想してみよう。 (例) 気象庁 天気予報 	
	(あなたが調べたサイト・調べた地域)	
雷の活動 	外で活動する時には雷への注意が必要です。 (例) 気象庁 ナウキャスト 	
	(あなたが調べたサイト・調べた地域)	
潮の 満ち引き 	海の水面の高さも常に動いています。潮が引いている状態から急に満ちてくる日もあるので、確認しましょう（大潮の日など）。 (例) 潮見表確認サイト tide736.net 	
	(あなたが調べたサイト・調べた地域)	
川の 水位情報 	大雨の後などには、しばらくの間、川の水位が上がっています。 色々な時期の水位を確認して、比べてみましょう。 (例) 国土交通省 川の防災情報 	
	(あなたが調べたサイト・調べた地域)	

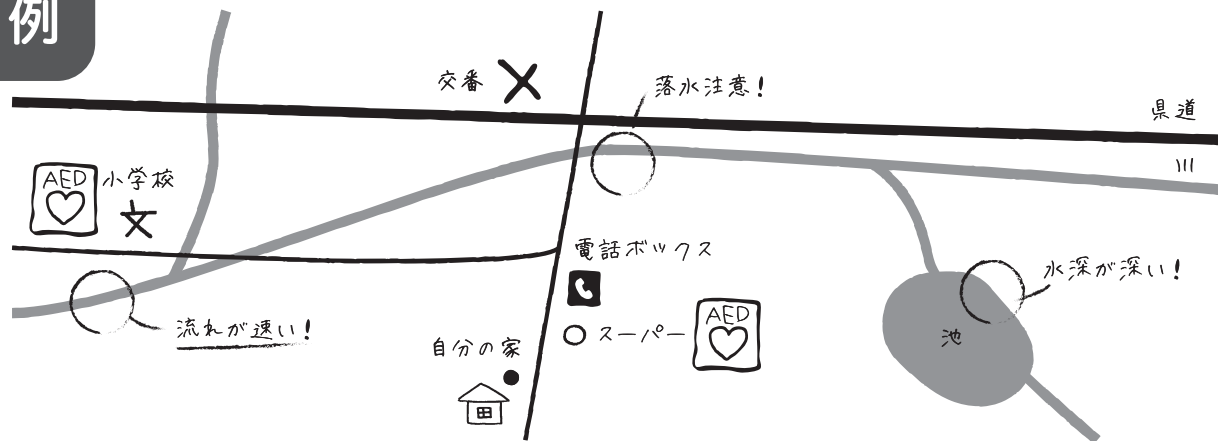
❗ 大雨や強風、雷や台風が近づいている時に海や水辺に近づかないことが大切です。
また、場所によって、潮の満ち引きや、川の増水に注意が必要です。
普段から情報の見方になれておきましょう。



身近な水辺のハザードマップをつくろう



例



子供の水辺の事故は、旅行先や遠くの海などではなく、身近なところにある川やため池で毎年のように起きています。

あなたが住む地域や、良く行くはん囲で、危険な場所をチェックしてみましょう。



例



小学校



交番



電話ボックス



AED



危険な場所

❗ 通学路や普段よく行く場所にある水辺（用水路、ため池、川、海など）と危険な理由（さくが低い、さくを乗り越えられる、落ちたら上がれない、流れが速い、水深が深いなど）を書き入れてください。

合わせて、電話ボックス、交番、消防署、コンビニエンスストアなど、大人に助けを呼べる場所も書き入れましょう。

その他、AED（エーイーディー）や、浮き輪などの道具がある場所があれば記入します。事故を100%防ぐことはできませんが、前もって事故が起きた時にどのように動くか、どこに何があるかを、みんなで考えてみましょう。

振り返り
学習

あお向けで水にうく「背うき」のコツをつかもう



自分の体ひとつで水にういて、呼吸ができる状態になるのが「背うき」です。
意外と難しい「背うき」を成功させるポイントを、あなたは分かったかな？

動き	コツ（どのようにするとうまくできるか）	確認したら ☑
プールに立った状態から、 後ろ向きに倒れる		
足をのばして、 つま先を水の上に出す		
（二人ひと組でサポートする場合） どこをどうやって支える？		
背うきの状態になり、息をする		
プールでの背うきを終えて、 立ち上がる		

身近な「うく物」

あなたは水に落ちた人を発見しました！その人が「背うき」できるように、何か「うく物」を投げたい！どんな物がありますか？投げる時に注意することはありますか？

うく物	投げる時のポイント
例) ペットボトル	例) フタをしめる。中身がカラで軽すぎると飛ばない。